

令和3年9月29日
話題事項
令和3年9月8日、17日、24日
資料提供済

県立博物館施設「秋の特別展」のご案内

「紀の国わかやま文化祭2021」また「和歌山誕生150年」を記念するとともに、和歌山県の文化の魅力に多くの方に触れていただくため、紀伊風土記の丘・博物館・近代美術館の県立博物館施設3館で、格別な「秋の特別展」を開催します！

県立紀伊風土記の丘

開館50周年記念

「海に挑み、海をひらくーきのくに七千年の文化交流史ー」

会期：令和3年10月2日（土）～12月5日（日）

【みどころ】

紀伊半島沿岸部では、縄文時代から近代に至るまで、「海の道」を通じて日本列島各地と交流がおこなわれており、近世には紀州漁民が先進的な漁の技術を伝え、また商人は廻船によって盛んに交易を行いました。この約7,000年の文化交流史を、考古資料や民俗資料から紹介します。

和歌山市大同寺遺跡出土「冢形 甕」^{はそう}（古墳時代・東京国立博物館蔵）など、和歌山ゆかりの縄文時代から中世の交流史を語る考古資料が集結します。また、捕鯨やカツオ漁など紀州人が全国に伝えた漁業に関する貴重資料を紹介します。

県立博物館

創立50周年記念

「きのくにの名宝ー和歌山県の国宝・重要文化財ー」

会期：令和3年10月16日（土）～11月23日（火・祝）

【みどころ】

創立50周年という節目を迎え、県外の国立博物館などに寄託されている国宝（人物画象鏡^{じんぶつがぞうきょう} [隅田八幡神社蔵]・銀銅蛭卷太刀^{ぎんどうひるまきたちこうらえ} 拵 [丹生都比売神社蔵]）・重要文化財も里帰りして、和歌山県が誇る名宝を一堂に会する特別展です。「きのくにの仏像と神像」「きのくに荘園の世界」「国宝・熊

野速玉社の古神宝類「紀州東照宮の名宝」^{ろせつ おうきょ}「蘆雪・応挙 紀南寺院の障壁画」の5つのコーナーを設け、和歌山県の誇る数々の優品を紹介します。

県立近代美術館

「和歌山の近現代美術の精華」

会期：令和3年10月23日（土）～12月19日（日）

【みどころ】

和歌山県にゆかりのある明治期以降の美術家の優品を、館蔵品はもとより国内各地から集め、2部構成で紹介する特別展です。第1部「観山、龍子から黒川紀章まで」では和歌山県ゆかりの作家と美術の支援者を28のコーナーで紹介。下村観山《魔障》の本画と下図が、東京国立博物館・永青文庫・和歌山県立近代美術館から3点並ぶほか、川端龍子の《草炎》（東京国立近代美術館）、《南山三白図》（宮内庁三の丸尚蔵館）などの名品をご覧ください。第2部「島村逢紅と日本の近代写真」では、これまで注目されながらも知られてこなかった和歌山市出身の写真家島村逢紅の全貌を初公開。交流のあった荻原碌山の彫刻や同時代の写真の名作と共に紹介します。

担当課	県立紀伊風土記の丘学芸課
担当者	萩野谷正宏 蘇理剛志
電話	073-471-6123

担当課	県立博物館学芸課
担当者	前田 正明
電話	073-436-8684

担当課	県立近代美術館教育普及課
担当者	奥村 一郎
電話	073-436-8691

担当課	文化遺産課	文化学術課
担当者	葛城 智美	松本 裕子
電話	073-488-6293	073-441-2050

令和3年9月29日
話題事項
令和3年9月8日
資料提供済

開館50周年記念 令和3年度秋期特別展

「海に挑み、海をひらく—きのくに七千年の文化交流史—」

の開催について

会期 令和3年10月2日（土）～ 令和3年12月5日（日）

本特別展では、紀伊半島の沿岸に暮らした先人たちが、海とともに生き、恵みや富を得るため海をひらき、「海の道」を往来した歴史を、考古資料と民俗資料を中心とする文化財から紹介し、海の民が活躍した約7000年の文化交流史をひも解いていきます。

展示資料は140件800点

（うち国指定文化財3件、県指定文化財4件、市町指定文化財6件、国登録文化財1件）

【みどころ1】紀伊半島における縄文時代から中世の「海の道」の交流を示す考古資料が集結

田辺市高山寺貝塚（史跡）出土品（田辺市教育委員会蔵・高山寺蔵）、和歌山市岩橋千塚古墳群（特別史跡）出土品をはじめとする縄文時代から中世までの各時代の遺物から、約7000～500年前の交流史を紹介します。また、国内唯一の出土で、古墳時代の和歌山平野と朝鮮半島との交流をしめす和歌山市大同寺遺跡出土「家形甕」（東京国立博物館蔵）が4年ぶりに里帰りします。

大同寺遺跡 家形甕（東京国立博物館蔵）5世紀



【みどころ2】紀伊・南伊勢・志摩における海の暮らしや生業を紹介

縄文時代から近代における漁労や製塩で使用したさまざまな道具から、紀伊半島各地の自然環境に適応して発達した生業と、その暮らしの移り変わりを紹介し、旧国の紀伊・南伊勢・志摩に相当する紀伊半島沿岸部における歴史的風土のなりたちを考えます。

白浜遺跡 鹿角製釣針（三重県鳥羽市立海の博物館蔵）約2000年前



【みどころ3】クジラやカツオなど紀州人が全国に伝えた漁業に関する貴重資料を紹介

中世末から近世にかけて、紀州の漁民は「旅網」と称してイワシ網漁・カツオ漁・捕鯨など獲物を求めて移動しながら漁業を行い、なかでも古式捕鯨は江戸時代前期に熊野で発展し、その技術が九州西海地域へ伝わりました。紀州の漁民が、その先進的な技術を広めた足跡を関連資料から紹介します。



三輪崎のクジラモリ（新宮市教育委員会蔵）19～20世紀

【みどころ4】特別展講座・関連シンポジウムを開催

詳しい内容・講師等についてはチラシ裏面をご覧ください。

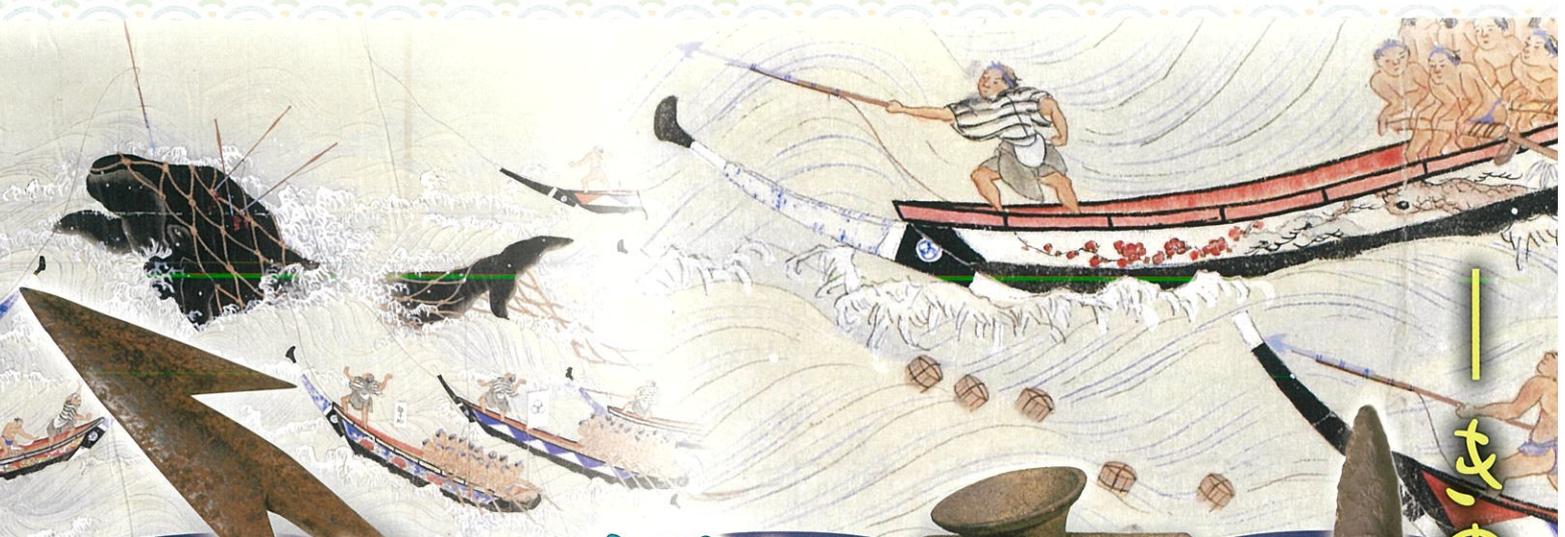
※詳しくは別紙開催要項、チラシをご参照ください。

新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、開催行事に変更が生じる場合があります。その際は、当館ホームページでお知らせします。

担当課(室)	県立紀伊風土記の丘
担当班・係	学芸課
担当者	主任学芸員 萩野谷正宏 主査学芸員 蘇理剛志
電話	073-471-6123



紀の国わかやま文化祭 2021 特別連携事業



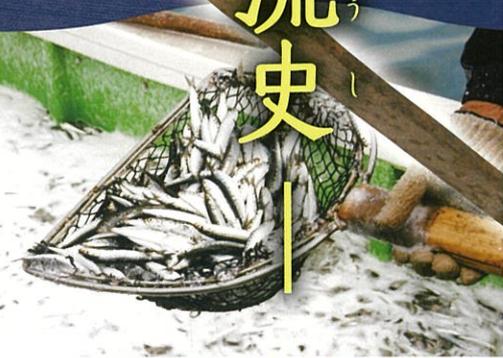
海に挑み、海をひらく

Leading the Challenge on the Sea: Kii Peninsula's Seven Thousand Years of Cultural Exchange

2021年10月2日(土) ≫ 12月5日(日)

七千年の文化交流史

文化交流史



漁大 現権大智那



和歌山県立紀伊風土記の丘 〒640-8301 和歌山市岩橋 1411 電話 073-471-6123

ホームページ <https://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp>

【開館時間】9:00~16:30(入館 16:00まで)【休館日】毎週月曜日(ただし11月22日(月)は開館)、11月24日(水)

【入館料・特別展期間】一般360円(290円)・大学生220円(160円)※高校生以下、65歳以上、障害者及び県内在学の留学生の方は無料(要:証明書)

()内は20名以上の団体料金

※今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては開催中止等の変更が生じる場合があります。詳しくは当館HPをご確認ください。

山青し 海青し 文化は輝く 紀の国わかやま文化祭2021 令和3年10月30日(土)~11月21日(日)

和歌山県と三重県南部が位置する紀伊半島の沿岸部は、紀伊水道と熊野灘に臨み、多様な海岸地形や美しい自然景観が広がっています。

そこでは黒潮の恵みにより、縄文時代より近代に至るまで、漁労や製塩などを主要な生業とする暮らしが営まれてきました。

現在、紀伊半島沿岸の各地でみることができる特色ある歴史的風土は、各時代の海の民による暮らしや生業の歴史が重なり合い形成された側面をもつと考えられます。

また、この地域では、縄文時代以来「海の道」を通じて日本列島各地と交流がおこなわれており、近世には紀州漁民が日本各地に漁場を開いて先進的な漁の技術を伝え、商人は廻船によって盛んに交易を行いました。

本展では、紀伊半島の沿岸に暮らした先人たちが、海とともに生き、恵みや富を得るため海をひらき、「海の道」を往来した歴史を、考古資料と民俗資料を中心とする文化財から紹介し、海の民が活躍した約7000年の文化交流史をひも解いていきます。

—まきのくに七千年の文化交流史—

海に挑み、海をひらく

シンポジウム「紀伊半島をめぐる海の道と文化交流」

11月21日(日) 10:00~16:30

- 「カツオ漁と紀州人」川島秀一氏(東北大学災害科学国際研究所)
 「古式捕鯨業時代の紀州と西海の交流」中園成生氏(平戸市生月町博物館・島の館)
 「伊勢・志摩・熊野の海人の実像を追う」穂積裕昌氏(三重県埋蔵文化財センター)
 「海と生きた縄文・弥生時代の人びと—かれらが海に乗り出した理由—」寺前直人氏(駒澤大学)
 「紀伊半島沿岸における海の生業と文化」蘇理剛志・萩野谷正宏(当館)
 討論司会/櫻井敬人氏(太地町歴史資料室)

電話申込 10月29日(金) 13:00~ 定員 60名(先着順) 会場 和歌山県立紀伊風土記の丘

連続講座

第1回 10月10日(日) 13:30~15:30

- 「弥生・古墳時代、瀬戸内の海に生きた人々と海上交通」柴田昌児氏(愛媛大学)
 「紀伊半島をめぐる弥生時代の東西交流」萩野谷正宏(当館)
 「海を介した交流の再検討—古墳時代の紀伊半島を中心に—」田中元浩(当館)

第2回 10月17日(日) 13:30~15:30

- 「海洋性とゆるやかな定住社会—紀州文化への視座—」野地恒有氏(愛知教育大学)
 「今に生きる伊勢湾二千年の海の歴史文化—タコ・信仰・交流—」藤井康隆氏(佐賀大学)

第3回 10月24日(日) 13:30~16:00

- 「古代紀淡海峡周辺の漁業と塩業」積山洋氏(大阪市文化財協会)
 「紀淡海峡の海人集団」富加見泰彦氏(元県立紀伊風土記の丘)
 「みさきの古墳と埴輪」河内一浩氏(羽曳野市教育委員会)

第4回 10月31日(日) 13:30~16:00

- 「紀州漁民の関東出漁と醤油」須藤護氏(龍谷大学名誉教授)
 「海の民俗からみた日本列島のなかの紀伊半島—ウミガメの利用と信仰の習俗を中心に—」藤井弘章氏(近畿大学)
 「年表から読み解く紀州海民の活躍」蘇理剛志(当館)

第5回 11月28日(日) 13:30~15:30

- 「旅に出て、ふるさとに生きる一人の移動の民俗学—」松田睦氏(国立歴史民俗博物館)
 「戦後出稼ぎ漁業と和歌山県の漁村」今川恵氏(国立研究開発法人水産研究・教育機構)

電話申込 第1回: 9月23日(木)~、第2回: 9月30日(木)~、第3回: 10月8日(金)~
 第4回: 10月15日(金)~、第5回: 11月5日(金)~ (いずれも13:00から)

定員 各回30名(先着順) 会場 和歌山県立紀伊風土記の丘

特別展民俗芸能公演

11月14日(日) 13:30~15:30 ※詳細はホームページ等にてお知らせします。

- 「塩津のいな踊」(県指定無形民俗文化財) 塩津のいな踊保存会
 「三輪崎の鯨踊」(県指定無形民俗文化財) 三輪崎郷土芸能保存会

学芸員による展示解説

10月16日(土)、11月6日(土)、11月23日(火・祝)、12月4日(土)

時間: 13:30~14:30

参加費: 無料(要入館料) 参加方法: 当日受付



交通

- ・JR和歌山駅東口: 和歌山バス「紀伊風土記の丘」行き 約20分 終点下車 バス発車時刻 平日/7:50 9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35 土・日・祝日/9:00 10:00 11:50 13:35 14:35 15:35
 - ・阪和自動車道: 和歌山インターから車で約5分
- ※発車時刻は時刻表改定などにより変更になる場合がございます。

和歌山県立紀伊風土記の丘

〒640-8301 和歌山市岩橋1411
 [TEL] 073-471-6123
 [FAX] 073-471-6120

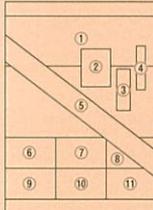
[ホームページ] www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp
 [Eメール] kofun@kiifudoki.wakayama-c.ed.jp
 [公式ツイッター] <https://twitter.com/kiifudokinooka>



紀伊風土記の丘HP



チラシ表面写真



- 1 紀州漁業絵巻 捕鯨 (和歌山県立図書館)
- 2 和歌山市大同寺遺跡出土 家形埴輪 (東京国立博物館)
- 3 三重県白浜遺跡 鹿角製釣針 (鳥羽市立海の博物館)
- 4 御坊市天田橋南出土 押出型ポイント(石砦) (個人蔵 御坊市歴史民俗資料館保管)
- 5 新宮市三輪崎 鯨絵 (新宮市教育委員会)
- 6 周参見王子神社奉納船絵馬【県指定文化財】(周参見王子神社 すさみ町立歴史民俗資料館保管)
- 7 大漁旗(靱み鯛) (由良町教育委員会)
- 8 日高町産 地引網で水揚げされたイワシ(2000年撮影)
- 9 大漁旗 (海南市教育委員会)
- 10 和歌山南漁協ささみ支所 水揚げされたカツオ(2021年撮影)
- 11 和歌山市天王塚古墳 玉頸 (和歌山県教育委員会)



- 12 紀州漁業絵巻 飯網 (和歌山県立図書館)
- 13 串本町笠嶋遺跡 舟形木製品 (串本町教育委員会 無量寺保管)
- 14 三重県雲山古墳 双龍環頭大刀【町指定文化財】(南伊勢町教育委員会)
- 15 田辺市高山寺貝塚 土製小玉 (田辺市教育委員会)
- 16 万祝 (千葉県銚子市 個人蔵)
- 17 三重県熊野市 一本釣擬似針 (熊野市歴史民俗資料館)
- 18 長崎県平戸市 手形包丁 (平戸市生月町博物館・島の館)
- 19 紀州熊野太地三輪崎鯨方捕鯨図 (和歌山県立博物館)
- 20 勢子五番船櫓板(鯨船部材)【町指定文化財】(太地町立くじらの博物館)



国宝 銀銅蛭卷太刀拵
丹生都比売神社蔵 平安時代(12世紀)
[資料番号48]

重要文化財 菩薩半跏像 極楽寺蔵
飛鳥時代(7世紀) [資料番号1]

令和3年9月29日
話題事項
令和3年9月17日
資料提供済



和歌山県の名宝が勢揃い

和歌山県立博物館創立50周年記念特別展
「きのくにの名宝 ー和歌山県の国宝・重要文化財ー」の開催について

会 期: 令和3年10月16日(土)~11月23日(火・祝)
(展示日数34日)

県立博物館創立50周年という節目の年を迎え、県外の国立博物館に寄託されている国宝・重要文化財も里帰りして、和歌山県が誇る名宝を一堂に会する展覧会です。これまでの博物館の活動をふまえ、「きのくにの仏像と神像」「きのくに荘園の世界」「国宝・熊野速玉大社の古神宝類」「紀州東照宮の名宝」「芦雪・応挙 紀南寺院の障壁画」という5つの視点から、和歌山県の誇る数々の優品を紹介します。

展示資料 240点 (うち国宝48点、国宝(附)2点、重要文化財88点、重要文化財(附)4点、重要有形民俗文化財7点、和歌山県指定文化財57点、和歌山県指定文化財(附)1点、市町村指定文化財6点)

【みどころ】

1. 県外の国立博物館に寄託されている国宝・重要文化財も里帰り。
 国宝 じんぶつがぞうきょう 人物画像鏡 隅田八幡神社蔵(東京国立博物館寄託) 当館で初公開
 国宝 ぎんどうひるまきたちごしらえ 銀銅蛭卷太刀拵 丹生都比売神社蔵(東京国立博物館寄託) 当館で18年ぶり
2. 熊野速玉大社に伝えられた国宝の古神宝類と神像がずらり。
 明德元年(1390)に天皇・上皇・将軍・諸国の守護らによって奉納された約1000点の古神宝類のなかから選りすぐった40点と熊野速玉大神像(国宝)ほか7軀を展示。
3. 創建400年を迎えた紀州東照宮に伝えられた家康・頼宣ゆかりの宝物もずらり。
 歴代の紀伊藩主が奉納した宝物のなかから、家康の遺品として頼宣(初代藩主)に譲られた太刀・甲冑・装束、頼宣の初陣用に家康が作らせた装束などを中心に展示。
4. 連続講座「名宝からみる、きのくにの歴史と文化」の開催。
 館長と学芸員が担当した展示の内容をお話しします。
 詳しくはチラシの裏面をご覧ください。

[添付資料] チラシ、主な出陳品、出陳資料目録、開催要項
 画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ、送付いたします。
 admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

主な出陳品

I きのかくにの仏像と神像



平安時代前期(9～10世紀)に制作された像高101.2cmに達する等身を超える神像。肩幅が広く胸板の厚い量感あふれる造形、背筋を伸ばした堂々とした姿勢は、表情と相まって雄偉な印象である。理想的な神の姿の造形化が成し遂げられる時期に制作されたもので、日本を代表する神像彫刻の傑作ともいわれる。

(国宝 くまのはやたまのおおかみざぞう 熊野速玉大神坐像 くまのはやたまたいしゃ 熊野速玉大社蔵 [資料番号26])

II きのかくに荘園の世界



江戸時代後期(19世紀)、現在の橋本市で刀剣や土器とともに発見されたとも伝えられる。背面に人物や騎馬像が彫られた銅製の画像鏡で、中国製の画像鏡を手本に、日本で作られたとされている。「みずのとひつじ 癸未年」に制作されたことが記されている。「癸未年」については、西暦443年説と503年説とが有力である。[東京国立博物館寄託]

(国宝 じんぶつがぞうきょう 人物画像鏡 すだはちまんじんじゃ 隅田八幡神社蔵 [資料番号54])

III 国宝・熊野速玉大社の古神宝類



明徳元年(1390)に奉納された古神宝類の一つで、上着と肌着の間に着る装束。文様を織り出した地に別の色糸で二重に文様を浮き上がらせる二重織という高度な技術が用いられている。熊野速玉大社の第一殿の社殿である結宮に祭られる夫須美大神(女性の神様)に奉納されたものと考えられている。

(国宝 あこめ もえぎ こあおいふせんりょうまるもんふたえおり 相 萌黄小葵浮線綾丸文二重織 熊野速玉大社蔵 [資料番号92])

IV 紀州東照宮の名宝



かぶと 兜やかたあて 胴、めんぼお わきあて 肩当はイタリア製、くさずり 面頬や脇当、かぶと 草摺、しころ 兜の鞆は日本製である。しのぎ 胴の中央に鎬を立てているのが特徴で、試し撃ちの跡がある。縦に長い兜には、人物やかつちゆう 剣、甲冑などの模様が施され、腰まで覆う胴にはマンドリンや獅子、唐草文などが線刻されている。1570～80年ごろ北イタリアで制作されたとみられている。

(重要文化財 なんぼんどうぐそく 南蛮胴具足 徳川家康所用 紀州東照宮蔵 [資料番号120])

V 芦雪・応挙 紀南寺院の障壁画



12面のうち右4面に滝の傍らで眠る2頭の獅子、中央4面に立ち上がり目を剥き毛を逆立てて怒気をあらわにする獅子(写真)、左4面にその獅子に駆け寄る二頭の獅子を描く。静と動の対比、斜線と垂直線を活かした幾何学的な構図が目を引く。紀南に残る芦雪の作品は制作年代が明らかで重要。本図は天明6～7年(1786～87)の制作。

(重要文化財 からじしず 唐獅子図 長沢芦雪筆 成就寺蔵 [資料番号148])

担当課	和歌山県立博物館 学芸課
担当者	学芸課長 前田正明
電話	073-436-8684

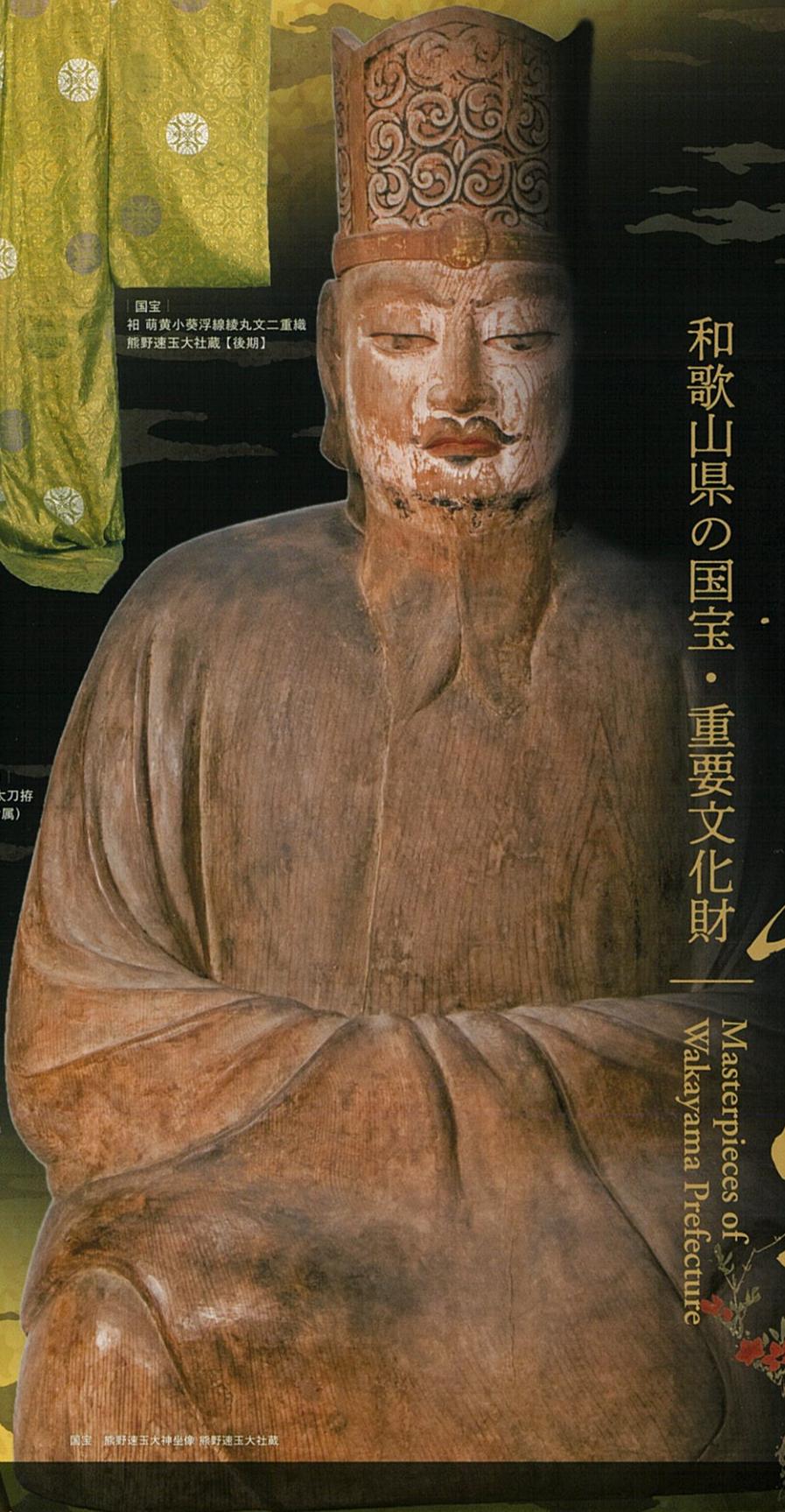
和歌山県立博物館創立五〇周年記念

— 特別展 —

まのくにの国宝

和歌山県の国宝・重要文化財

Masterpieces of
Wakayama Prefecture



国宝 熊野速玉大神坐像 熊野速玉大社蔵



国宝
和 萌黄小葵浮線綾丸文二重織
熊野速玉大社蔵【後期】



重要文化財(附)
梨子地葵紋糸巻太刀拵
(太刀 銘 安綱 附屬)
紀州東照宮蔵

2021年
10.16 | 土 | → 11.23 | 火・祝 |
〔前期〕10.16 | 土 | → 11.7 | 日 | 〔後期〕11.9 | 火 | → 23 | 火・祝 |

※前期と後期で一部展示替えをします。

開館時間 | 9:30~17:00(入館は16:30まで) / 休館日 | 月曜日(但し、ふるさと誕生日の11月22日[月]は開館)
入館料 | 一般 1,000円(800円) 大学生 800円(600円) ※ ()内は20名以上の団体料金
高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方、県内の学校に在学中の外国人留学生は無料
※11月7日(日)は、第一日曜日の無料開放事業を実施しません。

主 催 | 和歌山県立博物館

和歌山県立博物館
http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp
〒640-8137 和歌山南吹上1-4-14 TEL.073-436-8670 FAX.073-423-2467
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

— 和歌山城・南側 —



◆JR和歌山駅・南海和歌山市駅からバス県庁前下車、徒歩2分
◆和歌山ICから車で約20分 ◆和歌山港から車で約7分

特別展 | **きのくにの名宝** 和歌山県の国宝・重要文化財

和歌山県は貴重な文化財が豊富に残されている地域です。県内には、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の高野山や熊野三山をはじめとする霊地・霊場が各所にあります。江戸時代には御三家のお膝元として、和歌山城下町が発展し、海運の発達によって海岸沿いも賑わいを見せました。この特別展では、和歌山県立博物館創立50周年という節目を迎え、和歌山県が誇る名宝を一堂に会し、紀州の風土で育まれた豊かな歴史と文化を紹介します。和歌山県の魅力を再発見していただく機会となれば幸いです。



和歌山県指定文化財
紅地桃文様金糸入纏珍羽織
紀州東照宮蔵【前期】

重要文化財
藍地花菱唐草文散紋小袖
紀州東照宮蔵【後期】

国宝
人物画像鏡
岡田八幡神社蔵

- 展示構成 | I きのくにの仏像と神像 / II きのくに荘園の世界
III 国宝・熊野速玉大社の古神宝類 / IV 紀州東照宮の名宝
V 蘆雪・応挙 紀南寺院の障壁画



重要文化財
南蛮具足
紀州東照宮蔵



国宝 銀鋼巻大刀拵 丹生都比売神社蔵



国宝 又純室簡集七十八巻下のうち阿豆川荘上村百姓等申状 金剛峯寺蔵



重要文化財
帝釈天立像
紀三井寺蔵



重要文化財
菩薩半跏像
極楽寺蔵



重要文化財 唐獅子図 長沢蘆雪筆 成就寺蔵【前期】



重要文化財 雪梅図 円山応挙筆 草堂寺蔵【後期】

連続講座

「名宝からみる、きのくにの歴史と文化」

(館長や学芸員が展示資料に関わるお話をします)

会場: 近代美術館2階ホール(博物館となり)

講演: 13時30分~15時40分

- 10月23日(土) ①伊東 史朗(当館館長)
②竹中 康彦(当館主幹 III担当)
- 11月 7日(日) ①大河内智之(当館主任学芸員 I担当)
②新井 美那(当館学芸員 V担当)
- 11月13日(土) ①坂本 亮太(当館主査学芸員 II担当)
②前田 正明(当館学芸課長 IV担当)

①13時30分~14時30分 ②14時40分~15時40分
担当した展示の内容を中心にお話します

◇事前申込制 いずれも先着50人

10月8日(金)9時30分から受付開始 TEL073(436)8670

※新型コロナウイルスの感染状況により中止となる場合があります。
中止の場合は当館ホームページでお知らせします。

和歌山県内の主な博物館・美術館の展覧会

和歌山県立近代美術館 TEL073(436)8690

特別展「和歌山の近現代美術の精華」

10月23日(土)~12月19日(日)

和歌山市立博物館 TEL073(423)0003

特別展「加太淡嶋神社展一女性・漁民の祈りー」

10月9日(土)~12月12日(日)

和歌山県立紀伊風土記の丘 TEL073(471)6123

秋期特別展「海に挑み、海をひらく-きのくに七千年の文化交流史-」

10月2日(土)~12月5日(日)

高野山霊宝館 TEL0736(56)2029

高野山霊宝館開館100周年記念大宝蔵展「高野山の名宝」

4月17日(土)~11月28日(日)

紀の国わかやま文化祭2021特別連携事業

山青し 海青し 文化は輝く

紀の国わかやま文化祭2021

第36回国民文化祭・わかやま2021 第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会

令和3年10月30日(土)~11月21日(日)



和歌山県誕生

150年
和歌山県PRキャラクター
いちゃん

From Modern to Contemporary: The Quintessence of Art in Wakayama

和歌山の近現代美術の精華

2021年10月23日(土)－12月19日(日) ※11月24日(水)に、一部展示替えを行います。

海と山に囲まれた自然風土を背景に、独自の歴史と文化を育んできた和歌山県は、今年、誕生150年を迎えます。この機に際し、「紀の国わかやま文化祭2021」と連携して開催する本展では、館蔵品はもとより国内各地から、和歌山の近代と現代をめぐる重要作を集めて紹介し、和歌山で育まれた文化の魅力を再発見する機会とします。

第1部 観山、龍子から黒川紀章まで



1-1 下村観山《唐茄子畑》1910(明治43)年頃 東京国立近代美術館蔵 ※後期展示



1-2 川端龍子《南飛図》1931(昭和6)年 和歌山市立博物館蔵

プレス向け解説会・

開会式のご案内

プレス向け解説会

2021年10月22日(金)13時30分から

プレス関係者を対象に解説会を実施いたします。ぜひ、この機会を利用して取材していただき、「和歌山の近現代美術の精華」展の魅力を発信していただきますようお願い申し上げます。

開会式および内覧会

2021年10月22日(金)15時から17時まで

※開会式に引き続き、内覧会を17時まで実施します。

第2部 島村逢紅と日本の近代写真



2-9 島村逢紅《椿》1934(昭和9)年
個人蔵

2-11 島村逢紅《鮎》1943(昭和18)年
個人蔵



第1部 観山、龍子から黒川紀章まで

明治期以降の近現代美術史において独自の足跡を残した美術家を、和歌山は数多く輩出してきました。また大正期に和歌山出身の美術家を招集して南紀美術会を創立した徳川頼倫や徳川頼貞、文化学院を開校した新宮出身の西村伊作など、美術家たちがそれぞれの世界を築くために重要な役割を果たした人物がいたことも忘れられません。

第1部では、和歌山ゆかりの美術家と支援者たち、そして和歌山県立近代美術館を設計した黒川紀章まで、多種多様な作品や資料を一堂に集めて展示します。



1-3 建島大夢《ながれ》1911(明治44)年
東京国立近代美術館蔵



1-4 村井正誠《風の中の除幕式》1968(昭和43)年 和歌山県立近代美術館蔵



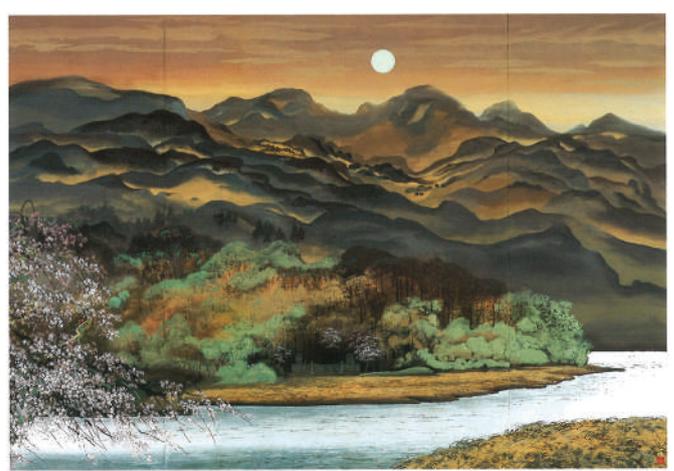
1-5
田中恭吉《失題》
1914(大正3)年
和歌山県立
近代美術館蔵
※後期展示



1-6 石垣栄太郎《街》1925(大正14)年
和歌山県立近代美術館蔵



1-7 石垣栄太郎《街》1925(大正14)年
神奈川県立近代美術館蔵



1-8 稗田一穂《春巡る熊野》1995(平成7)年 田辺市立美術館蔵 ※後期展示



1-9 鈴木理策《海と山のあいだ(14, DK-507)》2014(平成26)年
和歌山県立近代美術館蔵

作品・資料約 200 点

日本画 下村観山、川端龍子、野長瀬晩花、日高昌克、稗田一穂
洋画 川口軌外、原勝四郎、石垣栄太郎、村井正誠、松谷武判、
宇佐美圭司、野田裕示

彫刻 下村清時、建島大夢、保田龍門、建島覚造、保田春彦
版画 田中恭吉、恩地孝四郎、逸見享、吉田政次、浜口陽三

写真 鈴木理策

デザイン 山名文夫、黒川紀章

美術文化 南紀美術会、北山清太郎、西村伊作

第1部の見どころ

- ・国内各地から名作を集め、和歌山ゆかりの作家たちの業績を紹介
- ・黒川紀章の当館設計図など、和歌山で初公開となる作品も多数展示

第2部 島村逢紅と日本の近代写真

第2部「島村逢紅と日本の近代写真」では、和歌山市出身の写真家・島村逢紅（本名：安三郎／1890–1944）を、初めて本格的に紹介します。

和歌山市の酒造業などを営む家に生まれた逢紅は、若い頃から美術に興味を持ち、中学時代から美術雑誌『みづゑ』に投稿して日本水彩画会会友になるなどの活動を始めました。美術学校進学は、家業を継ぐため断念しますが、しかし絵画とほぼ同時期に始めた写真は、逢紅の生涯にわたる表現活動となりました。1912（明治45 / 大正元）年には、和歌山市にて「木国写友会」を結成して活動を本格化させ、雑誌の公募や展覧会などへの入賞によって次第にその名は全国に知られることとなります。



1930年代には、福原信三が設立した「日本写真会」の同人となり、1939（昭和14）年に資生堂ギャラリーで初めての個展を開催、芸術写真から新興写真へと移り変わる時代において、逢紅はその独自の漆黒と階調表現により、福原路草と対比して「路草の白、逢紅の黒」と高く評されました。

本展では、交流のあった同時代を代表する写真家たち、福原信三、福原路草、野島康三、安井仲治、淵上白陽、そして「木国写友会」のメンバーだった島村嫩葉、島村紫陽、江本綾生、また同郷の寺中美一や保田龍門、その出会いのきっかけともなった荻原守衛の作品も展示し、1910年代から40年代までの逢紅の作品約200点、その他の作品約50点により、その足跡を振り返ります。



2-1 島村逢紅
《荻原守衛《女》(新宿・礫山館)》
1913(大正2)年
和歌山県立近代美術館蔵



2-2 島村逢紅《桜》制作年不詳
東京都写真美術館蔵



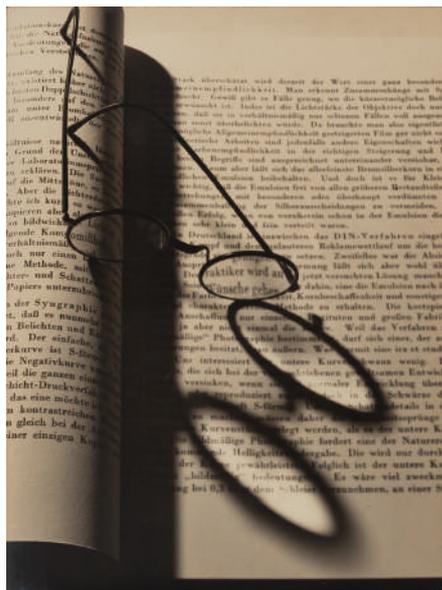
2-3 島村逢紅《母と子 其一》1934(昭和9)年 個人蔵



2-4 島村逢紅《タンク》制作年不詳 東京都写真美術館蔵



2-5 島村逢紅《スマイル》1920–30年代 個人蔵



2-6 島村逢紅《眼鏡と洋書》1930年代 個人蔵



2-7 島村逢紅《仏手柑》1929(昭和4)年 個人蔵



2-8 島村逢紅《椿(八)》制作年不詳 東京都写真美術館蔵



2-10 島村逢紅《椿》1930年代 東京都写真美術館蔵



2-12 島村紫陽《雨具》1937(昭和12)年
東京都写真美術館蔵



2-13 福原路草
《トタンの塀 麻布筭町自邸付近》
1935(昭和10)年 資生堂企業資料館蔵

第2部の見どころ

- 近代日本の写真史に大きな足跡を残した島村逢紅の作品を、福原信三、福原路草、野島康三、安井仲治といった作家たちの名作とともに、初めて本格的に紹介
- 逢紅の作品約200点、その他の作品約50点を展示

開催概要

会期 : 2021年10月23日(土)～12月19日(日)
※11月24日(水)に一部展示替えを行います。

開館時間 : 9時30分～17時 [入場は16時30分まで]

休館日 : 月曜日 [ただし、11月22日(月・ふるさと誕生日)は開館し、11月24日(水)は休館]

観覧料 : 一般: 1000[800]円 大学生: 600[480]円 []内は20名以上の団体料金

※高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料

※11月13日(土)、14日(日)は、「関西文化の日」として無料

※11月22日(月)は、「ふるさと誕生日」として無料

※10月23日(土)、11月27日(土)[毎月第4土曜日]は、「紀陽文化財団の日」として大学生無料

主催 : 和歌山県立近代美術館、NHK 和歌山放送局、NHK エンタープライズ近畿



関連イベント

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容の変更、人数の制限、事業の中止を行う場合があります。変更があった場合は、美術館のウェブサイト等でお知らせします。

講演会「和歌山の近現代美術の精華」

10月24日(日) 14時～ 2階ホールにて

講師: 山野英嗣 (当館館長)

スライドレクチャー「学芸員による展示解説」

11月 6日(土) 日本画 (藤本真名美)

11月20日(土) 彫刻 (青木加苗)

11月21日(日) 美術文化 (宮本久宣)

11月27日(土) 写真 (奥村一郎)

12月 4日(土) 洋画 (植野比佐見)

12月11日(土) 版画、デザイン (井上芳子)

12月18日(土) 現代美術 (奥村泰彦)

各日14時～ 1時間程度 2階ホールにて

※詳細は当館ウェブサイトなどにてお知らせします。

こども美術館部 (小学生対象の作品鑑賞会)

12月4日(土)、5日(日)

各日11時～ 1時間程度 定員6名程度

※当館ウェブサイトより事前に参加申込みが必要。

(申込開始: 11月16日 9時30分～)

※展示室に同伴される保護者は観覧券が必要です。



1-10 山名文夫《資生堂モダンカラー粉白粉》
1933(昭和8)年 資生堂企業資料館蔵



1-11 山名文夫
《資生堂創業100年記念
新聞広告イラストレーション原画》
1972(昭和47)年
資生堂企業資料館蔵



紀の国わかやま文化祭 2021 関連イベント

講演会

11月3日(水・祝) 2階ホールにて

13時30分～14時30分 「増田八郎の仕事」 講師:藤隆宏(和歌山県立文書館)

14時40分～15時40分 「黒川紀章と和歌山県立近代美術館・博物館」

講師:吉田行雄(建築家・元黒川紀章建築都市設計事務所設計部長・
国土館大学大学院非常勤講師)

主催:「熊野古道」を世界遺産に登録するプロジェクト準備会ほか



1-12 黒川紀章
《和歌山県立近代美術館・
博物館 カウンターの庇の
原寸ディテール》
1997(平成9)年
和歌山県立近代美術館蔵



1-13 黒川紀章
《和歌山県立近代美術館
庇についてのスケッチ》
1993(平成5)年
黒川紀章建築都市設計
事務所蔵

ワークショップ「光とあそぶ」

移動式ピンホールカメラ「リヤカーメラ」試乗や「かぶるカメラ」制作を通して、写真の不思議を体験します。

10月30日(土)、31日(日) 各日10時～15時

講師:佐藤時啓(美術家・東京藝術大学教授)

場所:当館敷地、及び2階ホール

対象:小学生以上一般成人まで
※定員15名程度 ※事前申込み制

参加費:500円(保険・材料費)

申込み先:NPO法人和歌山芸術文化支援協会

主催:当館、NPO法人和歌山芸術文化支援協会ほか

9月30日(木)より先着順で受付。

メール:office@wacss.org か、電話:073-454-5858にてお申込みください。



和歌山県立近代美術館にて「リヤカーメラ」と佐藤時啓氏

「リヤカーメラ」とは
2012年紀の国森づくり基金活用事業「森のちからV・佐藤時啓 rebirth 森をめぐる」田辺市中辺路町での滞在制作によって制作されたものです。

県立博物館(とまり)の展覧会

創立50周年記念特別展きのくにの名宝

—和歌山県の国宝・重要文化財—

日程:10月16日(土)～11月23日(火・祝)

和歌山県立近代美術館

学芸担当:藤本真名美 広報担当:中川、角

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14

T E L : 073-436-8690

F A X : 073-436-1337

E-MAIL: moma_w@future.ocn.ne.jp

W E B : https://www.momaw.jp

From Modern to Contemporary: The Quintessence of Art in Wakayama

和歌山の近現代美術の精華

川端龍子《草炎》(部分)1930年 東京国立近代美術館蔵 前期展示

第1部 観山、龍子から黒川紀章まで

第2部 島村逢紅と日本の近代写真

2021年10月23日(土)ー12月19日(日)

開館時間:9時30分ー17時(入場は16時30分まで)

休館日:月曜日 ただし11月22日(月・ふるさと誕生日)は開館し、11月24日(水)休館

観覧料:一般1000(800)円、大学生600(480)円 ()内は20名以上の団体料金

*高校生以下、65歳以上の方、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *11月13日(土)、11月14日(日)は「関西文化の日」として無料

*11月22日(月)は「ふるさと誕生日」として無料 *10月23日(土)、11月27日(土)は「紀陽文化財団の日」(毎月第4土曜日)として大学生無料

*11月24日(水)に一部展示替えを行います。

和歌山県誕生150年/紀の国わかやま文化祭2021特別連携事業

主催:和歌山県立近代美術館、NHK和歌山放送局、NHKエンタープライズ近畿



The Museum of Modern Art, Wakayama

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14 tel. 073-436-8690 fax. 073-436-1337 www.momaw.jp

島村逢紅《椿(八)》(部分)制作年不詳 東京都写真美術館蔵

和歌山の近現代美術の精華

海と山に囲まれた自然風土を背景に、独自の歴史と文化を育んできた和歌山県は、今年、誕生150年を迎えます。この機に際し、「紀の国わかやま文化祭2021」と連携して開催する本展では、館藏品はもとより国内各地から、和歌山の近代と現代をめぐる重要作を集めて紹介し、和歌山で育まれた文化の魅力を再発見する機会とします。

第1部 観山、龍子から黒川紀章まで

明治期以降の近現代美術史において独自の足跡を残した美術家を、和歌山は数多く輩出しています。また郷土ゆかりの美術家を招集して南紀美術会を創立した徳川頼倫や徳川頼貞など、その活動を支援した人物もいました。

第1部では、和歌山ゆかりの美術家と支援者たち、そして当館を設計した黒川紀章まで、28の視点から作品や資料を展示します。

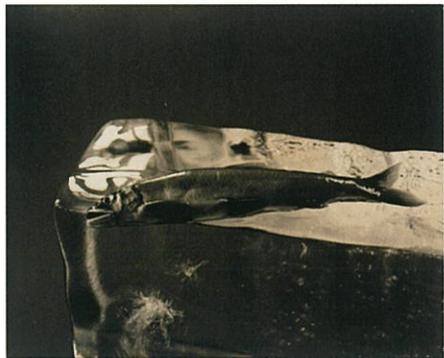
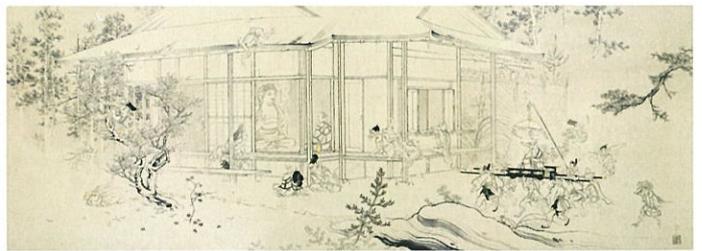
【日本画】下村観山、川端龍子、野長瀬晩花、日高昌克、稗田一穂 【洋画】川口軌外、原勝四郎、石垣栄太郎、村井正誠、松谷武判、宇佐美圭司、野田裕示 【彫刻】下村清時、建島大夢、保田龍門、建島覚造、保田春彦 【版画】田中恭吉、恩地孝四郎、逸見享、吉田次次、浜口陽三 【写真】鈴木理策 【デザイン】山名文夫、黒川紀章 【美術文化】南紀美術会、西村伊作、北山清太郎

第2部 島村逢紅と日本の近代写真

和歌山市出身の写真家・島村逢紅(1890-1944)を、初めて本格的に紹介します。

交流のあった同時代を代表する写真家たち、福原信三、福原路草、野島康三、安井仲治、淵上白陽、そして逢紅を中心に1912年に結成された写真団体「木国写真会」のメンバー、島村嫩葉、島村紫陽、江本綾生、また同郷の保田龍門や荻原守衛など美術家たちの作品も展示し、その関係にも注目します。芸術写真から新興写真へと移り変わる時代において、独自の漆黒と階調表現により、福原路草と対比して「路草の白、逢紅の黒」と評された逢紅は、1930年代には「日本写真会」の同人となり、1939年に資生堂ギャラリーで開催された初個展では高い評価を受けました。

第2部では、1910年代から40年代までの逢紅作品約200点、その他作品約50点によって、その足跡を振り返ります。



① 下村観山《魔障》1910年 東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives 前期展示
 ② 川端龍子《南飛図》1931年 和歌山市立博物館蔵
 ③ 田中恭吉《病児》(私蔵「月映」V所収) 1914年 和歌山県立近代美術館蔵 後期展示
 ④ 村井正誠《風の中の除幕式》1968年 和歌山県立近代美術館蔵
 ⑤ 山名文夫《資生堂創業100年記念新聞広告イラストレーション原画》1972年 資生堂企業資料館蔵
 ⑥ 鈴木理策《海と山のあいだ14, DK-507》2014年 和歌山県立近代美術館蔵
 ⑦ 島村逢紅《椿》1934年 個人蔵
 ⑧ 島村逢紅《鮎》1943年 個人蔵

関連イベント

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、内容の変更、人数の制限、事業の中止を行う場合があります。変更や詳細については、当館ウェブサイトなどをご覧ください。

講演会「和歌山の近現代美術の精華」

10月24日(日) 14時から15時30分 2階ホールにて
 講師: 山野英嗣(当館館長)

スライドレクチャー「和歌山の近現代美術」(学芸員による展示解説)

11月6日(土)日本画(藤本真名美) 11月20日(土)彫刻(青木加苗)
 11月21日(日)美術文化(宮本久宣) 11月27日(土)写真(奥村一郎)
 12月4日(土)洋画(植野比佐見) 12月11日(土)版画、デザイン(井上芳子) 12月18日(土)現代美術(奥村泰彦)
 いずれの日も14時から1時間程度、2階ホールにて

子ども美術館部(小学生対象の作品鑑賞会)

12月4日(土)、5日(日) *両日も11時から1時間程度。定員6名程度。当館ウェブサイトより事前に参加申込みが必要。

「紀の国わかやま文化祭2021」関連イベント

講演会
 11月3日(水・祝)2階ホールにて
 13時30分から14時30分「増田八郎の仕事」講師: 藤隆宏(和歌山県立文書館) 14時40分から15時40分「黒川紀章と和歌山県立近代美術館・博物館」講師: 吉田行雄(建築家・元黒川紀章建築都市設計事務所設計部長・国士館大学院非常勤講師)
 主催: 「熊野古道」を世界遺産に登録するプロジェクト準備会ほか

ワークショップ「光とあそぶ」
 講師: 佐藤時啓(美術家・東京藝術大学教授)
 10月30日(土)、31日(日) *両日も10時から15時。小学生以上一般成人まで15名程度。参加費500円。事前に参加申込みが必要。
 問い合わせ: NPO法人和歌山芸術文化支援協会
 電話073-454-5858

県立博物館(と)の展覧会

創立50周年記念特別展 きのくにの名宝一和歌山県の国宝・重要文化財—
 10月16日(土)–11月23日(火・祝)



交通案内: ◎JR和歌山駅から: バスで約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ◎南海電鉄和歌山市駅から: 徒歩15分/バスで約10分、「県庁前」下車、徒歩2分 ◎南海電鉄なんば駅から和歌山市駅まで特急で約1時間 ◎JR新大阪駅からJR和歌山駅まで特急で約1時間 ◎駐車場: 2時間まで無料、以後30分ごとに100円